

平成二十七年 度

小学校教員資格認定試験

教職に関する科目 (II)

国 語

注 意 事 項

受験者は、左記注意事項によること。それ以外の注意事項は試験実施大学の指示によること。

- 一、試験監督者の「始め。」の合図があるまで、この問題冊子を開いてはいけません。
- 二、実施大学名、氏名、受験番号、受験科目を平成二十七年 度「幼稚園・小学校教員資格認定試験解答カード」(以下、「解答カード」という。)の指定された欄に必ず記入してください。
- 三、受験番号、受験科目をマークしてください。
- 四、ただし、受験科目のマークについては、小学校の欄にマークしてください。
- 五、解答カードの中で特に受験番号、受験科目の欄の記入及びマークを間違えると失格になるので注意してください。
- 六、解答は、すべて解答カードの解答欄にマークで記入してください。問題冊子に答えを書いても無効です。
- 七、マークは必ず鉛筆を使用して、枠内にきちんと記入してください。
- 八、訂正する時は、消しゴムで完全に消してください。また、解答カードを曲げたり折ったりしてはいけません。
- 九、解答カードが汚れた場合や折れてしまった場合は、試験監督者に解答カードの交換を申し出てください。
- 十、この試験の解答時間は、「始め。」の合図があつてから五〇分です。
- 十一、試験が終わるまで退室できません。
- 十二、試験監督者の「やめ。」の合図があつたら、直ちにやめてください。
- 十三、下書きには問題冊子の余白を使用してください。
- 十四、試験終了後、問題冊子を必ず持ち帰ってください。

[マーク例]

(よい例) ●

(悪い例) ⊗ ⊘ ⊙ ⊚

問題 一〜十二ページ

※以下の問いにおいて、『小学校学習指導要領(国語)』とは、『小学校学習指導要領』(平成二十年文部科学省告示第二十七号)第2章 第1節 国語を言う。

問一 次の文は、『小学校学習指導要領(国語)』の「第1学年及び第2学年」の「1 目標」において(1)に示されている「話すこと・聞くこと」の目標である。文中の空欄 A から D に入る語の組合せとして正しいものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

相手に応じ、A などについて、事柄の B を考えながら話す能力、大事なことを落とさないように聞く能力、C に沿って話し合う能力を身に付けさせるとともに、D 話したり聞いたりしようとする態度を育てる。

- | | | | | |
|---------|----|----|----|------|
| | A | B | C | D |
| ア 身近なこと | 筋道 | 筋道 | 話題 | 工夫して |
| イ 調べたこと | 順序 | 順序 | 計画 | 進んで |
| ウ 身近なこと | 順序 | 筋道 | 話題 | 進んで |
| エ 調べたこと | 筋道 | 筋道 | 計画 | 工夫して |

問二 次の文は、『小学校学習指導要領(国語)』の〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容」における「C 読むこと」の(2)に例示されている言語活動である。文中の空欄 A から F に入る語の組合せとして正しいものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ・ A や詩を読み、 B を述べ合うこと。
- ・ C や報告の文章、図鑑や D などを読んで利用すること。
- ・ E したい本を取り上げて説明すること。
- ・ 必要な F を得るために、読んだ内容に関連した他の本や文章などを読むこと。

	A	B	C	D	E	F
ア	小説	意見	評論	辞典	朗読	情報
イ	物語	意見	記録	辞典	朗読	記事
ウ	小説	感想	評論	事典	紹介	記事
エ	物語	感想	記録	事典	紹介	情報

問三 『小学校学習指導要領(国語)』における〔第5学年及び第6学年〕の「2 内容」における「B 書くこと」の(2)に例示されている言語活動に含まれないものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 自分の課題について調べ、意見を記述した文章や活動を報告した文章などを書いたり編集したりすること。
- イ 目的に合わせて依頼状、案内状、礼状などの手紙を書くこと。
- ウ 事物のよさを多くの人に伝えるための文章を書くこと。
- エ 経験したこと、想像したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などを書いたりすること。

問四 『小学校学習指導要領(国語)』における「第1学年及び第2学年」の「2 内容」における「A 話すこと・聞くこと」の(2)に例示されている言語活動の記述として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 学級全体で話し合って考えをまとめたり、意見を述べ合ったりすること。
- イ 話の中心に気を付けて聞き、質問をしたり感想を述べたりすること。
- ウ 互いの考えの共通点や相違点を考え、司会や提案などの役割を果たしながら、進行に沿って話し合うこと。
- エ 知らせたいことなどについて身近な人に紹介したり、それを聞いたりすること。

問五 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 国語編(平成二十年八月、文部科学省)の「第1章 総説 3 国語科改訂の要点 (2)学習過程の明確化」における記述の一節である。文中の空欄 A から D に入る語の組合せとして正しいものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

自ら学び、課題を解決していく能力の育成を重視し、指導事項については学習過程を明確化した。例えば、「書くこと」では、書くことの A を決める指導事項や、書いたものを B する指導事項などを新設し、学習過程全体が分かるように内容を構成している。「読むこと」では、音読や解釈、 C の形成及び交流、目的に応じた D という学習過程を示している。

- | | | | | |
|---|-----|-----|-------|-----|
| | A | B | C | D |
| ア | 課題 | 交流 | 自分の考え | 読書 |
| イ | 主 題 | 交 流 | 作者の考え | 読 書 |
| ウ | 課 題 | 評 価 | 作者の考え | 朗 読 |
| エ | 主 題 | 評 価 | 自分の考え | 朗 読 |

問六 『小学校学習指導要領(国語)』の各学年における「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」の(1)の「ア 伝統的な言語文化に関する事項」に示されている内容として、誤っているものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア [第1学年及び第2学年]―昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりすること。
- イ [第3学年及び第4学年]―親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読すること。
- ウ [第3学年及び第4学年]―長い間使われてきたことわざや慣用句、故事成語などの意味を知り、使うこと。
- エ [第5学年及び第6学年]―古典について解説した文章を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知ること。

問七 次の文章は、『小学校学習指導要領解説 国語編』(平成二十年八月、文部科学省)における「第3章 各学年の目標と内容 第1節 第1学年及び第2学年」の「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」のうち、「ウ 文字に関する事項」の(イ)についての記述の一節である。文中の空欄 **A** から **D** に入る語の組合せとして正しいものを、後のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

第1学年では、漢字に対する興味や関心、字形に関する意識などを養いながら、学年に配当されている **A** 字の漢字を読めるようにする。第1学年の配当漢字には、 **B** 文字や **C** 文字が多く含まれているので、漢字の字形と具体的な事物(実物や絵など)とを結び付けるなどの指導を工夫し、漢字が **D** 文字であることを意識しながら、漢字に対する興味や関心を高められるようにする。

ア	160	会意	形声	表意
イ	80	象形	指事	表意
ウ	80	会意	指事	表音
エ	200	象形	形声	表音

問八 『小学校学習指導要領(国語)』の〔第1学年及び第2学年〕の「2 内容」における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「(1) イ 言葉の特徵やきまりに関する事項」に示されている内容として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 文や文章にはいろいろな構成があることについて理解すること。
- イ 指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割を理解し、使うこと。
- ウ 修飾と被修飾との関係など、文の構成について初歩的な理解をもつこと。
- エ 文の中における主語と述語との関係に注意すること。

問九 『小学校学習指導要領(国語)』の〔第3学年及び第4学年〕の「2 内容」における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「(1) ウ 文字に関する事項」に示されている内容として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 漢字のへん、つくりなどの構成についての知識をもつこと。
- イ 第2学年までに学習した常用漢字に加え、その他の常用漢字の大体を読むこと。
- ウ 平仮名及び片仮名を読み、書くこと。また、片仮名で書く語の種類を知り、文や文章の中で使うこと。
- エ 第4学年においては、日常使われている簡単な単語について、ローマ字で表記されたものを読み、また、ローマ字で書くこと。

問十 『小学校学習指導要領(国語)』の〔第5学年及び第6学年〕の「2 内容」における〔伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項〕の「(2) 書写に関する事項」について指導する。」に示されている内容として正しいものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 点画の長短や方向、接し方や交わり方などに注意して、筆順に従って文字を正しく書くこと。
- イ 姿勢や筆記具の持ち方を正しくし、文字の形に注意しながら、丁寧に書くこと。
- ウ 毛筆を使用して、穂先の動きと点画のつながりを意識して書くこと。
- エ 点画の種類を理解するとともに、毛筆を使用して筆圧などに注意して書くこと。

問十一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

研究者はながらく、みずからの知的努力を一つの専門領域に限り、専門外の領域に対して発言するのは越権としてみずからに禁ずることをよしとしてきた。裏返していえば、他の領域からの意見を専門外のものとして、受け容れようとしなかった。そして複合的な判断が必要なことがらについての発言は、それを「非科学的」と斥けてきた。それが研究者の「美德」とされてきた。

専門家が「特殊な素人」(小林傳司)でしかありえなくなった現代、科学者にはその逆の知的努力がもとめられている。状況の全体に目配りしつつそのつどの状況のなかで何がいちばん大事かを見通せること、複合的な要因によって発生している問題の解決のために幾重もの取り組み体制の「デザイン」ができることだ。

A は、専門分野でのイノベーションだけでなく、社会全体でなすそうした判断にこそ寄与しなければならぬ。トランスサイエンス的なことならについては、専門科学者の論争に決着がつく前に一般人が議論に加われるよう議論を開いておくこと、それがプロの責任というものである。じっさい、事故が起こってからは B 「としての手腕も活かさないのだから。」

大災害、河川の決壊、列車事故、テロ攻撃などへの備え、さらにはオゾン層破壊や感染症対策なども視野に入れると、完全なリスク回避というのはいない。それに完全を期せば、法外^Cというか底なしの経費がかかるし、他方、待たなしで対策を打たねばならない課題はほかにも無数にあり、財政バランスから言っても、どこかで見切りをつけるということがどうしても必要になる。仮にもし、ある災害や事故の発生確率とそれによる被害の規模を、関連の研究者たちが「科学者の合意」として算出しえたにしても、それで事が片づくわけではない。一定期間内の確率としてはかなり低い数字が示されたとしても、だからリスクはないに等しいと割り切つて他の施策に予算を回すのか、逆に、かなり低いとはいえリスクがある以上、安全対策は欠かせないと考えて相当の予算を充てるのかは、別の判断である。そしてこの判断をまかせられる「専門家」はいない。

(鷲田清一『哲学の使い方』による。一部の表記を改めた。)

本文中の空欄

A

B

に入る言葉の組合せとして最も適当なものを、次のアからイの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア A 専門家 B 科学者
- イ A 科学者 B 専門家

問十二 問十一文章中の傍線部C「法外」の意味を説明したものととして最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 思いもよらないこと。
- イ 人の守るべき道からはずれていること。
- ウ 法にはずれること。
- エ 程度をこえること。

問十三 問十一の文章に付ける小見出しとして最も適切なものはどれか。次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 専門主義を超えて
- イ 教養としての哲学
- ウ 哲学の存在理由
- エ 研究者への道

問十四 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

月日は百代ひゃくだいの過客にして、行きかふ年も又旅人なり。舟の上に生涯をうかべ、馬の口とらへて老いをむかふるものは、日々旅にして旅を栖すまとす。古人も多く旅に死せるあり。予もいづれの年よりか、片雲の風にさそはれて、漂泊のおもひやまず、海浜にさすらへて、去年の秋、江上の破屋に蜘蛛の古巣をはらひて、やや年も暮れ、春立てる霞かすみの空に白河の関こえむと、そぞろ神の物につきて心をくるはせ、道祖神のまねきにあひて、取るもの手につかず。もも引の破れをつづり、笠の緒付けかへて、三里に灸きゆうすゆるより、松嶋しんじまの月、先心まごころにかかりて、住める方は人に譲りて、杉風すぎかぜが別墅べつしょに移るに、

A

面八句を庵の柱に懸け置く。

(注) 杉風——芭蕉の門人。

『おくのほそ道』による。一部表記を改めた。

右の文章の傍線部の「漂泊のおもひやまず」の意味として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 危険な旅への警戒感がやまず
- イ 自分の気持ちを表現したいという思いがやまず
- ウ 旅に出たいという思いがやまず
- エ 心を洗いたいという思いがやまず

問十五 問十四の文章中の空欄

A

に入る句として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア あらたふと青葉若葉の日の光
- イ 草の戸も住み替はる代ぞ^{ひな}雛の家
- ウ 早苗とる手もとや昔しのぶ^{すず}摺
- エ 夏草や^{つばもの}兵どもが夢の跡

問十六 次の漢詩(七言絶句)を読んで、後の問いに答えなさい。なお、設問の都合で訓点を省略したところがある。

広瀬淡窓「桂林荘雜詠、示諸生四首」其二

休道他郷多苦辛

同袍有友自相

柴扉曉出霜如雪

君汲川流我拾薪

(注) 広瀬淡窓——江戸後期の儒者・漢詩人・教育者(一七八二—一八五六)。桂林荘——広瀬淡窓の家塾。全国から多くの塾生が集った。

同袍——一枚の袍(綿入れ)を共用するような親しい友。

柴扉——粗末な戸。

(『遠思楼詩鈔』による。一部表記を改めた。)

傍線部A「休道他郷多苦辛」の書き下し文として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 道に休む 他郷多苦辛のみ

イ 道ふを休めよ 他郷苦辛多しと

ウ 道を他郷に休むるは 苦辛多ければなり

エ 道ふを休む 他郷苦辛多からん

問十七 問十六の漢詩中の空欄 **B** に入る文字として最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 親
- イ 和
- ウ 寝
- エ 語

問十八 問十六の漢詩の内容を説明したものととして最も適切なものを、次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 作者淡窓は、他郷での学問に挫折した塾生たちに対し、外の世界に目を転じることで気分を一新させ、現状を打開するよう願っている。
- イ 作者淡窓は、他郷での学問に意気込む塾生たちに対し、時には休息を兼ねた野外活動により、友人相互の交流を深めるよう願っている。
- ウ 作者淡窓は、更なる学問のため他郷へ出立しようとする塾生に対し、餞の詩を贈ることで前途が輝かしいものとなるよう願っている。
- エ 作者淡窓は、故郷を離れて集う塾生たちに対し、友人相互に喜びも苦しみも分かち合いながら自己の修養に努め励むよう願っている。

問十九 次の各文のうち、現代日本語の表記に関する記述として正しいものはどれか。次のアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 「現代仮名遣い」(昭和六十一年七月一日内閣告示第一号)において助詞の「を」を「を」と書くよう定めているのは、表記の慣習を尊重したためである。
- イ 「ローマ字のつづり方」(昭和二十九年十二月九日内閣告示第一号)の第1表においては、「ふ」を「F」と書くよう定めている。
- ウ 「ローマ字のつづり方」(昭和二十九年十二月九日内閣告示第一号)の「そえがき」の4に示された方式によると、「お父さん」という語はオ列長音を含まない「otousan」と書くのが正しい。
- エ 「現代仮名遣い」(昭和六十一年七月一日内閣告示第一号)において一部の語を「ぢぢむ、いちぢるしい、ぢぢれる」のように書くよう定めているのは、これらが「同音の連呼によって生じた「ぢ」」という条件に該当するからである。

問二十 次の傍線部「くている」の中には、「あれ、いつの間にかセーターに穴が開いている。」の「くている」と同じ用法のものがある。それをアからエの中から一つ選んで記号で答えなさい。

ア 今朝からお腹がごろごろ鳴っている。

イ 父の大事な茶碗がこなこなに壊れている。

ウ ほら、変な男がこつちをじろじろ見ているよ。

エ 山田なら今、校舎の周りを走っているよ。